

2020年度 上智大学卒業式 卒業生・修了生代表謝辞

桜の便りと柔らかな日差しが降り注ぐ日々に春の訪れを感じる季節となりました。本日は、私たち卒業生・修了生のために、新型コロナウイルスによる制限が多くある中、万全の感染症対策のもとこのような式典を催して頂き、誠にありがとうございます。曄道学長をはじめ、各学部学科の先生方並びに教職員の皆様、そして私たちを今まで育て、大学にまで通わせてくださった両親、家族、共に多くの学びを共有した友人、先輩後輩の皆様、様々な学びの場と機会を与えてくださったすべての皆様に、卒業生・修了生を代表して厚く御礼申し上げます。

昨年より猛威を振るっている新型コロナウイルスによって、日本のみならず世界中で多くの方々が苦しみ悲しい想いをしており、これまでの日常生活や経済活動など様々な場面で大きな影響を及ぼしました。その先が見えない中で、私たち学生のためにご尽力いただいた諸先生方並びに教職員の皆様に、心より感謝申し上げます。また、新型コロナウイルスによって亡くなられた方々のご冥福申し上げます。一刻も早くこの事態が終息することを切に願っております。

4年前地元から上京し、喜びと期待を胸に上智大学の正門を通過して入学しました。新入生ガイダンスや入学後のオリエンテーションキャンプでは、新しく出会った仲間と夜遅くまで履修登録に苦戦しながらも、同じ志を持つ仲間とこれからの4年間を共に過ごせることを嬉しく思ったのが、つい先日のことのように思い出されます。

入学後間もなく、私は国内でのボランティア活動を行っているSVNというサークルに所属しました。特に東日本大震災で大きな被害を受けた岩手県陸前高田市での活動や東京都内で路上生活者への支援活動を通して、様々な考え方と見方があることを学びました。そして、今見えている部分は、事物のほんの一部でしかないことに気付き、大きな衝撃を受けました。今年は震災から10年目を迎える年にあたります。被災地の方々が口を揃えておっしゃっていた「震災の出来事を忘れないでほしい」という言葉を胸に、今後もこの活動で得た出会いや経験を大切に伝えて参りたいと思います。

これらのボランティアを通して学んだ「人との関わり」とは、上智大学が教育精神として掲げている「他者のために・他者とともに」が生きていることを実感する場であると思います。他者との関わりは、大学生活を送る中でも常に感じられましたが、特に専攻している神学を研究する中においては、私たちは常にその交わりのうちに存在し、またそのことによって自分自身が活かされ、誰かの生きる糧にもなっているということを学びました。他者との

関わりは、愛の循環の内にあり、隣人愛の実践に通じていることを経験しました。入学当初教わった「ベースとしての神学部」を常に軸として勉学に励みながら人との関わりに恵まれた4年間は、私にとってかけがえのない大切な時間であり、大きな実りとなりました。

私たちはこの春から、新たな環境でそれぞれ選択した道を歩んでいきます。歩んでいく際に、時に困難に直面したり、未熟が故に間違えた選択をしたりすることもあるかもしれませんが、ですが卒業生・修了生一同、上智大学で一人ひとりが学んだことを糧に社会へ貢献していけるように活躍して参りたいと思います。また、一昨年教皇フランシスコが来校された際のメッセージにもありましたように、私たちは上智大学の卒業生・修了生として、より社会や人々との交わりにおいて、何が選択をする中で最善なのかを意識的に理解し、自由に選択する際に責任を自覚した状態でなくてはなりません。これからは、社会の一員として上智大学で得られた知恵を糧とし、自らが持つ誠実さに嘘をつかず、社会的に目を向けられずにいる問題に対しても関心を持ちながら責任ある行動を実践していく者となることが求められています。この社会に、喜びと希望をもたらす使命を持つ者としても、教皇フランシスコが私たちに残して下さった言葉を胸に刻み、歩んで参りたいと思います。

最後になりますが、本日無事に卒業を迎えることができたのは、ご指導くださった諸先生方、私たち学生がよりよい大学生活を送れるよう環境を整えてくださった教職員の皆様、そして家族の存在があったからです。私たちをこれまで支えて下さったすべての方々とも見守り導いてくださる神様に、心より感謝申し上げます。

上智大学の更なる発展と豊かな恵みが注がれていくことをお祈り申し上げ、卒業生・修了生代表の謝辞とさせていただきます。

2021年3月26日

2020年度卒業生・修了生代表 神学部神学科 佐々木瑠那